



深刻な問題と新しい世界 (1月のごあいさつ)

平成 28 年 1 月 1 日 (金)

新年もよろしくお祝い致します。旧年中はお世話になりました。

「“今回はちがう” シンドロームの本質は、…いま自分の身に降りかかるものではない、…だが残念ながら、巨額の債務に依存する経済はきわめて脆い。…知らないうちに断崖絶壁を背にして座っているようなもので、…あっという間に谷底に転落する。」

(国家は破綻する カーメン・M・ラインハート外著 村井章子訳 日経 BP 社 2012 年発行)

15 年位前、新宿のハイアットホテルで、全国法人会連合会の税制委員 450 名余での税制セミナーがあった。当時 600 兆円に迫ってきた国家債務による将来の経済破綻について、次官経験者の前国税庁長官に質問したことがある。

壇上からの返答は、「日本人は賢明だから、そうなる前に対処し、そんなことにはならないと思いますよ」とのことだった。

国のこれからを考えると、物足りない回答であった。

現在、**財政支出超過**や**債務問題**以外の長期的な問題も顕在化しつつある。

一つは、**少子高齢化社会**と**忍び寄る労働力不足経済**であり、いま一つは、**社会保障給付の増加**である。これらに充分に対応できる長期的な経済力の増強、新しい産業を生む力がこのままの日本にはあるとは言えない。

老年者の年金等の社会保障は極めて厚い。中国人の友人が、**中国の老人**は貧しいが、**日本の老人**は、旅行や食事にお金をたくさん使って楽しんでいる。**老人が金持**なのはなぜだろうと不思議がっていた。これに反して、**日本の若者の所得水準**は低く、教育改革は空回り、次代への再生産を行う能力は極めて低い。

戦後の奇跡の復興 — 1950 年から 1980 年代前半にかけての**経済成長** —

— 1980 年後半の**バブル** — 1990 年からの**失われた 20 年** —

— そして今後何が起こるのか。

このような**現状** $f(x)$ を微分し、その結果を積分すると、**将来の** $F(x)$ は、**円安の進行**、**長期債務残高の増加**、**国債の下落**、**インフレ**と、**景気循環**を超えた**大不況**という事態となる。

しかし、今後起きることは、このような計算でできるものではないし、政治家の言う現行の年金制度の救済でもあり得なく、**別の、異質の、新しい基礎**からやり直す**世界**のような気がする。